

道標～みちしるべ～

令和1年（2019年）5月発行
みはらライフケアクリニック

（TEL：096-237-7555）

<院長：三原 修一>

開業8年目、皆様とともに！

開業8年目、皆様の温かい心に支えられて歩いてきました。体調が悪い時も、待ち時間が長い時も、じっと順番待ちされている姿を見ると、少しでも早く診てさし上げたいという気持ちでいっぱいになります。診察、内視鏡、緊急の措置と、一人で動き回っているため、時間配分がなかなかうまくいかないときもありますが、改善を重ねていきたいと思っています。さて、当院で発見されたがん症例ももうすぐ200例を超えます。毎月2例ほどの割合で発見されたこととなります。しかも90%が切除され、ほとんどの方が元気に暮らしておられます。手術が済み、“おかげで命拾いしました。”と元気に帰ってこられる姿を見て、私も思わずにっこり、“良かったねえ！”と返します。開業して良かったと、医者冥利に尽きる瞬間です。きつい日もありますが、皆様の元気と笑顔を見ると、また頑張れます。これからも、皆様とともに、一蓮托生で頑張っ

今回は、皆様から頂いたご意見を紹介します。たくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。

*本日、初めて受診させていただきました。とてもよくしていただき本当にありがとうございました。先生をはじめ、スタッフの皆様の優しいお心遣い、とても嬉しかったです。姉もお世話になっております。素敵な職場の雰囲気を感じました。ゆっくり過ごすことができました。(53歳、女性)

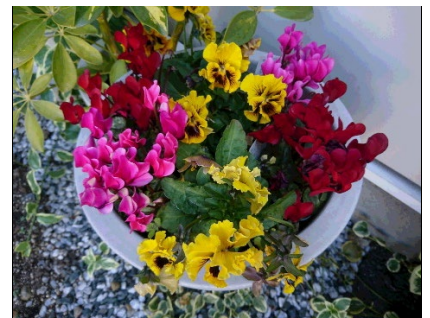
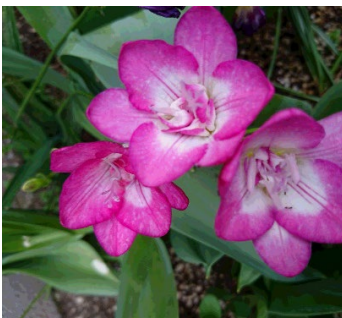
*初めての検査で緊張もあったのですが、看護師さんたちや検査にかかわってくださった方々、もちろん先生もですが、声をかけてくださり、とても安心して受けることができました。ありがとうございました。検査後の飲み物も美味しく頂きました。御馳走様でした。(27歳、女性)

*先生をはじめ、スタッフの皆さんすべての方が患者の立場に寄り添っていただいて、安心して検査を受けることができました。胃の検査、大腸の検査ともに、麻酔から怖くて敬遠してきましたが、これならもっと早く来ればよかったと思いました。紹介していただいた同僚に感謝し、今後いろいろな人にこちらを勧めたいです。今後ともよろしく願います。ありがとうございます。(49歳、女性)

*初めてお伺いしました。私は仕事柄、いろんな病院、クリニック等、医療機関に出入りしています。こちらのクリニックはとても雰囲気が良く、スタッフの接遇もとても良いと思いました。受付で笑顔で迎えられると、気持ちが安らぎます。これからも応援しています。(67歳、男性)

*この病院に来て、改めて自分の体をもっと大切にしていかななくてはならないと思いました。(年齢、性別不詳)

<阿田事務主任がクリニックで育てている花です！>



特集：“がん”で死ぬのはもったいない！

第7回：超音波検査ってすごい！～腹部超音波検査④：腎泌尿器の癌～

私たちが日赤熊本健康管理センターで行った腹部超音波検診受診者数は26年間で177万人、発見された腎泌尿器の癌は腎細胞癌404例、膀胱癌188例、腎盂尿管癌26例、前立腺癌69例など690例で、発見された全癌(1,730例)の40%を占めています。これらのがんによる死亡は年々増加していますが、特に前立腺癌は男性死亡の第6位と急増しています。

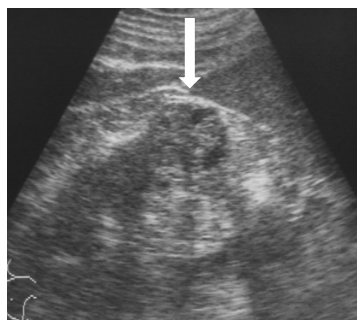
超音波検診で発見された腎泌尿器癌はそのほとんどが切除され、予後も極めて良好です。切除率は腎細胞癌98.5%、膀胱癌96.8%、腎盂尿管癌88.5%、切除例の10年生存率は腎細胞癌97.1%、膀胱癌98.1%、腎盂尿管癌69.3%でした。前立腺癌は手術以外のホルモン療法や放射線療法で治療される例が多く、切除率は14.5%と低率ですが、手術例の10年生存率は100%、全症例の10年生存率も76.9%と極めて良好です。

腎細胞癌(腎癌)は、肝臓癌と並んで、腹部超音波検診で最も多く発見される癌です。以前は早期発見が困難とされたがんですが、超音波検査で比較的簡単に発見できます。しかも、リンパ節や他の臓器に転移がなければ、大きくてもほとんど治ります(7cmまでが1期)。小さな腎癌は腎臓を全摘しなくても癌の腫瘍だけ切除する部分切除も可能です。

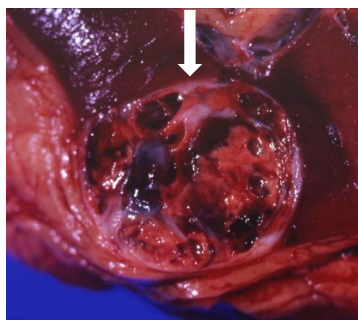
膀胱癌は、従来は血尿で発見されることが多く、既に進行癌で膀胱全摘が施行され、尿管を大腸につなぐ手術や、人工肛門のように尿バッグを体につけて生活するなど、手術後の生活も大変な癌でした。しかし、超音波検診で発見された膀胱癌はほとんどが早期がんで血尿もなく、95%に内視鏡による経尿道的切除が施行されています。生活の負担もなく、画期的なことです。ただ、膀胱癌は再発が多いので、定期的に検査(超音波検査、膀胱鏡検査)を受けることが重要です。

前立腺癌は超音波検査で見つかることもありますが、80%以上はPSA(前立腺特異抗原)という腫瘍マーカー(血液検査)で発見されます。加齢とともに急増する癌で、50歳頃から発見され始め、60歳過ぎたら急増します。PSA値が4.0ng/mL以上の方は、定期的にPSA値を測定し、上昇するときは精密検査(MRI検査、前立腺生検)が必要です。PSA値が10.0以上の時は早めに精密検査が必要です。前立腺癌は進行が遅く、手術、放射線療法、ホルモン療法、重粒子線療法など、何らかの治療をすれば、予後も極めて良好です。

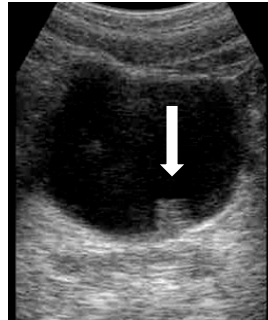
当院では、腹部超音波検査で下腹部(膀胱、前立腺、子宮、卵巣など)まで観察しており、良性・悪性の多くの腫瘍が発見されています。下腹部超音波検査では、尿をためておくことで観察が容易になりますので、記憶に留めておいてください。



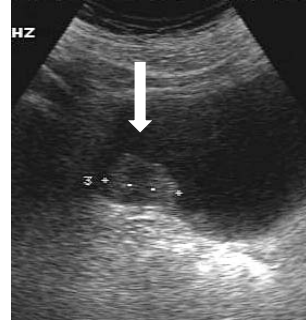
(3 cmの腎臓癌)



(腎臓癌：切除標本)



(1 cmの膀胱癌)



(3 cmの膀胱癌)

*スタッフ一同、常に皆様に寄り添いながら、よりよい医療を目指して努力して参ります。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。